

屋久島

Yakushima

屋久島は、九州本島最南端から南に約60km、東シナ海と太平洋の間に位置しています。島の中央部には、九州最高峰の宮之浦岳(1,936m)を主峰とする山岳が連座し、その山腹を多数の河川が深い谷を刻んで流れています。温暖多雨な気候で年間降水量は平野部で4,000mm、山頂部では10,000mmを超えるといわれています。遺産地域はこの屋久島の中心部から西の海岸部におよぶ約10,700haです。



縄文杉
現在確認されている中で最大のヤクスギ。縄文杉を含むスギ原生林が特別天然記念物に指定されている。荒川登山口から縄文杉までの行程は往復9~10時間程度かかる。幹周り16.4m、樹高25.3m、推定樹齢2,700年以上。



屋久島環境文化村センター
屋久島の自然と人々の暮らしを、模型、パネル、ビデオ映像、実物展示などでわかりやすく紹介する。1996年鹿児島県、屋久島町(旧上屋久町・旧屋久町)設置。



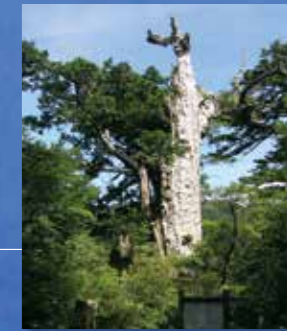
大王杉
縄文杉が知られるまでは、最大のヤクスギと言われていた巨木であるため、「大王」の名がついている。幹周り11.1m、樹高24.7m、推定樹齢3,000年以上。



ウイルソン株
幹周り13.8mで屋久島最大の切り株。約400年前に伐採されたといわれる。中は10畳ほどの空洞で泉が湧いている。ヤクスギの存在を世界に報じたウイルソン博士にちなんで命名。



白谷雲水 峽
ヤクスギの原生林を鑑賞できる自然休養林。散策コースが設定され、溪流や原生林、推定樹齢3,000年の弥生杉などを見ることができる。



紀元杉
シャクナゲやツツジ、ナナカマド、ヤマグルマ、ヒノキなど十種以上の植物が紀元杉に付着して生育している。幹周り8.1m、樹高19.5m、推定樹齢3,000年。



ヤクシマダケ草原帯
スギの樹林を上りきると、一面に開けたヤクシマダケ草原帯に入る。ところどころにヤクシマシャクナゲ、ハイノキ、アセビなど常緑や落葉の低木が群落をつくる。



屋久杉自然館
屋久島と屋久杉を紹介する施設。樹齢1660年の屋久杉、杉伐採に使われた全長2mのチェーンソー、積雪で折れた縄文杉の巨大な枝などを展示する。1989年屋久島町(旧屋久町)設置。*裏表紙参照



ヤクシマドリシジミ
ヤクシマを代表するチョウ。本州・四国・九州に生息するキリシマドリシジミの屋久島固有亜種。後翅の尾状突起がほとんど見られないのが特徴。幼虫は照葉樹林のアカガシ・ウラボシなどの葉を食べて育つ。



屋久島世界遺産センター
2014年、世界遺産と国立公園の魅力を紹介する展示にリニューアル。1996年環境省設置。*裏表紙参照



トローキの滝
鯛ノ川が滝になって直接海に流れおちる。落差は約6mと規模が小さいが、海に直接流れ込む滝は全国でも非常に珍しい。



千尋の滝
落差60mの壮大な滝。モッチョム岳の裾の巨大な花崗岩の岩盤を鯛ノ川が刻んで、壮大なV字谷の景観を作り出している。



ヤクスギランド
樹齢数千年のヤクスギが生育する屋久島の原生林が見られる森。4つの探索歩道があり、樹齢1,800年の仏陀杉などの大木や藩政時代の切り株、試し切り跡などを観察でき、清流を楽しむながら森林浴ができる。



世界自然遺産の登録区域



大川の滝
屋久島最大の滝で、88mの落差を大量の水が豪快に流れ落ちていく。日本の滝百選に選ばれている。



ヤクシカ
ニホンジカの亜種。全島的に生息し、人里近くの照葉樹から1,600m以上の高標高地まで広く分布する。



西部地域
屋久島の西部地域は、海岸線まで遺産地域として登録されており、遺産登録にあたり評価された植生の垂直分布が見られる。600haに及ぶ原生的な照葉樹林は日本最大級。



花之江河 小花之江河
屋久島のほぼ中央、標高約1,600mに位置する日本最南端の高層湿原。ミズゴケが一面に生育し、周辺には高山植物群やヤクスギの白骨樹が立ち並び美しい景観を見せる。

*「幹周り」は、地上から約1.3mの高さで計測した長さをいう。